

巻 頭 言



宮城県知事 村井 嘉浩

震災から 10 年の節目を迎えて

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災発生から、今年でちょうど 10 年となりました。

これまで国内外の多くの皆様の御支援や励ましをいただきながら、県民一丸となって復旧・復興を進めてまいりました。生活に密着したインフラの整備や災害に強いまちづくりなど、ハード面については概ね取り組みが完了し、「宮城県震災復興計画」の最終年度となった昨年度には、震災で甚大な被害を受けた沿岸地域に復興の象徴となる施設も完成したところです。

一方で、被災者支援、コミュニティの再構築、産業の再生といったソフト面の取り組みについては引き続き中長期的な対応が必要となりますが、そうした中、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行によって県民生活や地域経済が大きな影響を受け、未だ収束の兆しが見えない状況が続いています。加えて、本県でも近い将来に本格的な人口減少局面を迎えることが想定されており、地域経済・社会の持続可能性の確保も喫緊の課題であります。

このような状況において、県外、とりわけ海外の経済成長をいかに取り込んで自らの活力としていけるかという視点が重要であると考えており、本県では、「みやぎ国際戦略プラン」の下、姉妹省・州である中国・吉林省、米国・デラウェア州をはじめ、近年急速な経済成長を続けるアジア地域などと経済面を中心とした交流を推進しています。コロナ禍によって対面での交流は難しい状況となりましたが、これからも「新しい日常」におけるデジタル化などの動きに的確に対応しながら、交流の成果を県内企業や県民に還元できるよう取り組んでまいります。また、年々増加している外国人県民が地域で安心して暮らせる多文化共生社会の実現を目指すとともに、留学生や技能実習生などの外国人材が活躍できる環境づくりも更に進めていく必要があります。

今年は、延期されていた東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定であり、本県もサッカー競技の会場となっています。このほか、東北デスティネーションキャンペーンや全国豊かな海づくり大会など、国内外から多くのお客様の来県が期待される大型イベントも予定されています。こうした機会を通じて、震災から復興した“MIYAGI”の姿を世界中の方々に発信し、感謝の意をお伝えするとともに、“MIYAGI”のグローバル化を一層推進していくことで、東北を牽引する新たな価値を創出していくことができるよう全力で取り組んでまいります。